

小菅株式会社（東京都墨田区）【専門商社（合成ゴム・合成樹脂）】



LEADER

代表取締役会長 小菅 崇行 氏

商工会議所のイテオン
女性の活躍推進
時間外労働の削減

1980年～90年頃、高度成長の時代、社内には何よりも売上が優先する風土があった。その当時の働き方を含めた商習慣に疑問を感じた現会長の小菅氏は、「選択と集中」による労働時間の短縮を軸に、社員が仕事を通じ、より生きがいを持つことのできる環境づくりに取り組んだ。その結果、年間労働1800時間を達成。売上は、半減したが、収益構造は改善され、現在、実質無借金経営を実現している(2010年度東京ワークライフバランス認定企業表彰受賞)。

44人45脚

～知識・情報の共有化による、平等な機会・公平な労働～

■背景・きっかけ:

小菅現会長が社長に就任した当時、売上過多により人・物・金のバランスが崩れていた。社員による残業でそれらを補足していく状態が続く中、社員全員が持っている適性を生かす「幸せを実感できる会社」を目指し改革が始まった。

■取組内容・効果:

取り組みの特徴は“身の丈経営”。社員の残業に支えられ売上を伸ばしていくのではなく、習慣化している日常業務の中の無駄を見直すことにより、長時間労働を抑制し収益構造を改善した。

具体的には、専門卸業界では、いち早くデータ管理システムを導入。ISOの考え方に基づくペーパーレス化や人員機器の配置の工夫による業務の効率化、全員正社員雇用による労務管理の簡素化で、年間労働1800時間を達成し維持している。現在、残業は社員1人あたり年間平均20時間程度（1日あたり平均6分程度）となっている。

同社の理念の中核は、「平等な機会、公平な労働」。役員含め44人が知識・情報を共有し、一丸となって社業に汗を流す。そのため、改革の内容に女性社員を優遇したものはないが、長時間労働の削減やフレックス制度の導入等、働きやすい環境の整備は、結果として、女性社員の活躍推進を後押ししている。

■今後の展望と課題

採用活動にあたっては、商業高校のからの定期採用と「ご縁」での採用を重視しているため、入社後の教育に力を入れている。特に、ISO認定制度については、管理資格取得者が社員の半数以上にのぼり、その知識は自主的な改善や維持活動に活かされている。

中小企業の実践 ポイント

- ▶ 無駄のない身の丈にあった経営
- ▶ 社員全員の正社員登用



↑リーダーを中心に、チーム全員が目を合わせやすいように席を配置している。



↑木材をふんだんに使った女性休憩室



↑インターンシップ生に対しワーク・ライフ・バランスに対する考え方を説明する小菅会長(右)

【企業データ】

代表者	代表取締役会長 小菅 崇行	会社設立年	1924年	従業員数	38人 (男性19人、女性19人)
本社所在地	東京都墨田区東向島2-33-2	ホームページ	http://kosuge-jp.com/index.html		
事業内容	合成ゴム・合成樹脂の専門卸				